

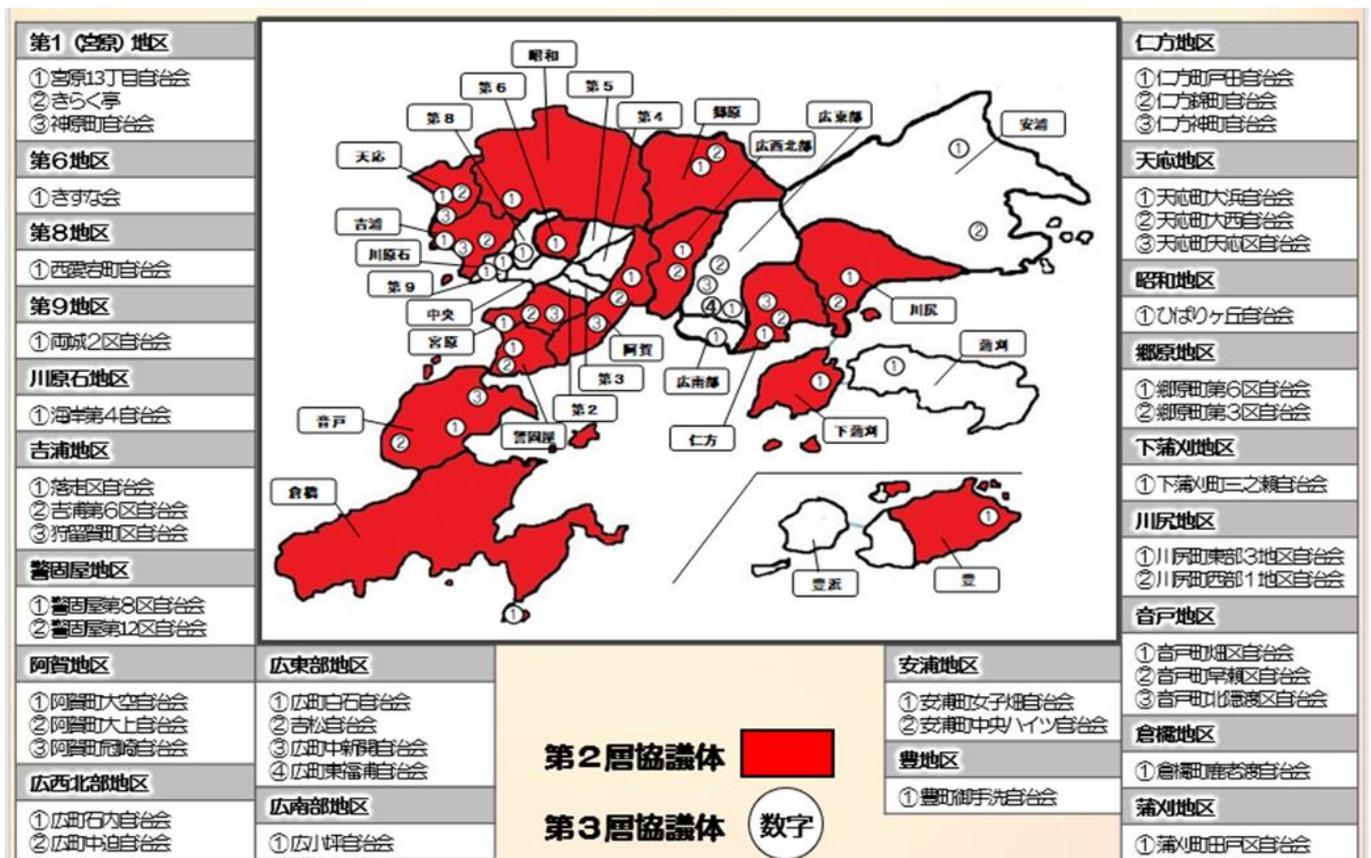
令和3年度 生活支援等サービス体制整備事業活動実績

令和4年3月末現在

1 協議体設置・開催状況

	中央	天応・吉浦	昭和	宮原・警固屋	東部	川尻・安浦	安芸灘	音戸・倉橋	計
第2層協議体									
設置か所	1	2	1	2	4	1	2	2	15
開催回数	0	1	1	2	3	1	2	2	12
第3層協議体									
設置か所	4	6	1	5	15	4	3	4	42
開催回数	8	12	2	7	68	3	18	3	121

※新型コロナウイルス感染症拡大により開催延期・中止又は住民主体の課題解決能力が向上し、協議体を必要としない取組あり。



2 第3層協議体取組状況

地域	地域課題	地域資源	取組内容	今後の方針 ○残った課題
中央	<ul style="list-style-type: none"> ●外出・交流機会が減少 ●移動困難（買い物等） ●地域活動への担い手不足 	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会館等で開催している常設サロンやふれあい・いきいきサロン（以下「サロン」）等が交流の場になっている ●協議体を通して住民同士のつながりが強化されたことで、新たな活動を生み出すことができる ●生活支援に協力的な社会福祉法人がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●買い物シャトルバス（買い物支援） ●海四ささえあいNET（生活支援） ●新たな拠点が欲しいという声を形にするため協議 	<ul style="list-style-type: none"> ●生活支援活動については、近隣自治会においても生活支援サービスが欲しいとの声が上がっているため、第2層協議体の立ち上げを働きかけていく ●買い物支援としてタクシーのグループ利用を検討 ○自治会長等、世話役に負担が集中
天心・吉浦	<ul style="list-style-type: none"> ●外出・交流機会が減少 ●移動困難（買い物等） ●地域活動への担い手が不足 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域行事に関心の高い住民が多い ●自治会館等で開催しているサロンが交流の場になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ●シルバーサポート事業（見守り） ●サロンプラス事業（居場所・介護予防・野菜市） ●いきいきサロンかるが（居場所づくり） ●防災避難者声掛けカードを作成し、モデル地区にて配布 	<ul style="list-style-type: none"> ●見守り活動を継続拡大 ●防災避難者声掛けカード作成を自治会全域に拡大 ○地域活動継続のため、担い手の確保が必要 ○移動困難（買い物等）
昭和	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活動への担い手が不足 	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会役員と民生委員の連携体制が密に図れている ●同じ自治会区域に住んでいるからこそ、助け合わないといけないという思っている人が多い ●自治会館でサロンと貯筋グループを実施している。定期的に住民同士が顔を合わせる機会がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●現状の可視化、課題の抽出、将来の展望を協議 	<ul style="list-style-type: none"> ●住民同士が助け合える関係づくりを目的に既存の活動を活かしながら、新たな住民主体の活動を検討 ○地域活動継続のため、担い手の確保が必要
宮原・警固屋	<ul style="list-style-type: none"> ●外出・交流機会が減少 ●移動困難（買い物、医療受診等） ●自治会区域内の交流が少ない ●地域活動への担い手が不足 ●易浸水地域に高齢者が多いため避難等が困難な場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●常設サロン等様々な集いの場があり、地域のつながりが生まれる場所となっている ●自治会長の地域福祉への理解が深く、なおかつ率先して行動するため、一緒に動く仲間が多い ●世帯の半数が公務員官舎の入居者で、比較的若い世帯が多いため、自治会行事に活気がある ●自治会行事を核とした住民同士の交流が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ●さくらの会（居場所づくり） ●絆見守り活動（見守り） 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動者のモチベーション維持・向上のため、定期的な研修の開催を検討 ○地域活動継続のため、担い手の確保が必要 ○移動困難（買い物、病院受診等） ○易浸水地域に高齢者が多いため避難等が困難な場合がある
東部	<ul style="list-style-type: none"> ●移動困難（買い物・医療受診等） ●交流機会の減少 ●住民同士のつながりが希薄化 ●地域活動の担い手不足 ●防災意識の向上 ●空き家・耕作放棄地の増加による治安への不安 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域行事に協力的な人が多い ●自治会館等で開催しているサロンや老人クラブの集まり、グラウンドゴルフ等が交流の場になっている ●住民同士の交流を目的として、自治会が様々なイベントを開催している ●自治会や女性会、老人クラブなど団体間の連携が図れている ●廃校となった小学校が活発に利用されており、地区内の住民に限らず地区外からの利用者も多い ●防災リーダーが活発に活動 ●農業をしている人が多く、元気な人が多い ●移動販売車が巡回予定 	<ul style="list-style-type: none"> ●白糸見まもり事業（見守り） ●見守り愛運動（見守り） ●吉松見守り・助け合い活動（見守り・助け合い） ●中新開見守り活動（見守り） ●東福浦ふれ愛運動（見守り） 	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会内をはじめとし、各団体間の連携を図ることが難しい ●買い物や移動手段について、住民主体で取り組める方法を検討 ○地域活動の継続のため、担い手の確保が必要 ○移動困難（買い物・医療受診等） ○防災意識の向上 ○空き家・耕作放棄地の増加による治安への不安

地域	地域課題	地域資源	取組内容	今後の方針 ○残った課題
川尻・安浦	<ul style="list-style-type: none"> ●移動困難（買い物・医療受診等） ●住民同士のつながりが希薄化・孤立 ●地域活動の担い手不足 ●集いの場の立ち上げを希望する人が多いが、自治会域が広いので、誰もが集まれる場所が見つからない 	<ul style="list-style-type: none"> ●サロンのほか、自治会行事が活発に行われており、どれも参加者が多い ●年2回自治会員を対象とした研修会を実施しており、自治会員が多く集まる機会となっている ●自治会役員と民生委員の連携が密に図れている ●若い世代が地域活動に協力的 ●住民同士の交流が盛んなため、つながりが深い 	<ul style="list-style-type: none"> ●よろずネット（ネットワーク） ●ホットサポート西1（見守り） 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動が形骸化等、今後の取組内容を検討するため、振り返り会議に専門職の参画を促し、協働を図る ○集いの場の確保 ○地域活動の継続のため、担い手の確保が必要 ○移動困難（買い物、医療受診等）
安芸灘	<ul style="list-style-type: none"> ●外出・交流機会の減少 ●男性が地域で活躍する場がない ●移動困難（買い物・医療受診等） ●地域活動の担い手が不足 ●緊急時の対応や連絡先が自治会組織として把握されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ●集会所等で開催しているサロンやカラオケクラブ、グラウンドゴルフ等が交流の場になっている ●気軽に立ち寄り、話ができる店がある ●サロン参加者等を対象に、女性会が見守り訪問活動を実施している ●JAで購入した重たいものを自宅まで配達 	<ul style="list-style-type: none"> ●ちょっと♡よりんさい（居場所づくり） ●見守り合い活動「御手洗の輪」（見守り） ●現状の可視化、課題の抽出、将来の展望を協議 	<ul style="list-style-type: none"> ●サロンに参加していない人や外出が難しい高齢者等を気に掛け合える仕組みづくりを検討 ●新たな外出・交流機会となる場の立ち上げを検討 ●見守り合い活動の希望者が増加しているため、持続可能な運営方法を検討 ○地域活動の継続のため、担い手の確保が必要 ○移動困難（買い物・医療受診等）
音戸・倉橋	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活動の担い手が不足 ●住民同士のつながりが減少 ●移動困難（買い物、医療受診等） ●サロン参加者減少 	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会館等で開催しているサロンが交流の場になっている ●男性の世話役のいるサロンがある ●交通については、広電バスが1時間に1本、地域バスが2時間に1本運行している 	<ul style="list-style-type: none"> ●現状の可視化、課題の抽出、将来の展望を協議 ●地域調査の一環で個別避難計画を作成 	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな外出・交流機会となる場の立ち上げを検討 ●個別避難計画作成だけでなく、緊急時に活用できるように、日常の地域活動の取組を検討 ○移動困難（買い物、医療受診等）